

## 海外短信

# 近年の上海の発展と中国で流行しているサービスについて

岡本 達王\*

### ・はじめに

私は2009年3月より上海に駐在しています。大学卒業後、地元の関西本社のフォワーダー（貨物利用運送事業者、国際輸送業）に就職。入社3年目で研修生として上海へ赴任、同年10月から駐在となりました。本誌が刊行される頃には9年目を迎えます。

今回は近年の上海の発展と中国の都市部で現在流行しているサービスについてお伝え致します。

### ・上海について

中国で4市ある直轄市のうちの1つで、面積は6,340.5km<sup>2</sup>、総人口は2,415万人（国家统计局調べ）、GDPは中国1位。16区で構成されていますが、一般的に上海市内（市中心）と言われるのは、昔からの市街地の7区（黄浦区、徐汇区、長寧区、楊浦区、虹口区、普陀区、静安区）と新都心である浦東新区の一部です。また同7区を浦西、新都心の浦東新区を浦東と呼称され、その中央を黄浦江（揚子江の支流）が流れています。

### ・上海の街の変化

私が始めて上海に来たのは2003年、留学中の厦門から大阪に帰る際、上海発のフェリーを利用した時でした。現在では上海最大のオフィス街となっている陆家嘴ですが、当時の超高層建築物といえばシンボルタワーの東方明珠塔、上海金茂大廈（ジンマオタワー）くらいでした。地下鉄も1～3号線しか通っておらず、主な移動手段もバスかタクシー。浦西の中心部でも一本裏通りに入れば中国らしい町並みがみられるところが殆どでした。

ところが、2009年に駐在員として赴任した頃には、地下鉄が7～8路線通っており、数年前にはなかった高層ビルも増え、街のイメージは大きく変わっていました。また、当時は上海万博直前で再開発ラッシュ。街の至る所で工事を行っており、今より埃っぽかった気がします。（当時PM2.5は騒がれておりませんでした。が、今よりも酷かったと思います...）

赴任後の8年間も街は拡大を続け、現在地下鉄は16路線も開通しており、陸家嘴には今や世界で2番目の高層ビルの上海タワー（上海中心大廈、632m）や上海ワールドフィナンシャルセンター（上海環球金融中心、474m）を中心に多くのオフィスビルが林立。浦西エリアの再

\* 阪急阪神国際貨運（上海）有限公司 助理經理

開発も進み、現代的な高層ビルが今も増え続けており、都心部では先進国の大都市のような近代的な街並みとなっています。

・流行① \*\*スマホ決済サービス\*\*

日本ではまだ普及が進んでいないスマホ決済ですが、中国では数年前より爆発的に普及し、既に定着しています。代表的なものは“支付宝”と“微信支付”。今やスマホを持っている殆どの人が利用をしています。私自身も利用していますが、飲食店、スーパー、コンビニ等の店舗で使えるだけでなく、公共料金の支払い、送金、投資信託まで出来てしまいます。今年は紅包(お年玉)もこれで送るのが流行しました。

・流行② \*\*シェア自転車\*\*

2016年の春に突如現れ、爆発的なスピードで普及したのがこのサービス。今や4~5社が鎬を削っています。先ず携帯にアプリを入れ、保証金(数十元~数百元/会社による)を支払えば、後は30分単位(最近はより短い単位のものも出ています)で利用できます。自転車には全てGPSが搭載されており、アプリを開くだけで近くに自転車があるかどうか確認ができます。会社によっては予約(15分間)できるところもあり、利用料金は高く30分1元(約16円)程度。地下鉄駅前を中心に街中の至る所があり、駐輪場所(歩道に白線で引かれているエリア)であれば乗捨てOKと使い勝手も非常に良いです。また、同アプリでは利用した時間、走行距離、消費カロリーまで確認できることも、健康志向が高まっている中国で人気が出た要因かもしれません。

尚、数年前から幾つかの地方政府も無料(保証金は必要)のレンタル自転車サービスを始めていましたが、特定の場所にしか同ステーショ

ンがなく、使い勝手が悪かったので全く流行りませんでした。

・流行③ \*\*越境EC\*\*

少し前までは代購(個人が海外で購入、もしくは個人輸入した物を国内で転売すること。殆どの場合輸入申告がされていないので、実質は密輸品の転売になります。)が盛んに行われていた為、あまり流行っていませんでしたが、2016年4月から中国税関が代購の取り締まりを厳しくした事で、一気に需要が高まり、今では多くの日本企業も参入しております。一回の取引額が2千元、年間2万元という縛りはありませんが、通常の輸入よりも規制が緩く、税制面での優遇もある為、国内販売価格より若干安く、且つ直接メーカーや商社から購入でき、偽物をつかまされる可能性が低い事も需要が高まった一因です。人気商品は化粧品、健康食品、ベビー用品等になります。

・おわりに

上海を筆頭とした都市部に住んでいる中国人の生活に対する要求は年々高くなっており、購買意欲もまだまだ旺盛です。また、それを満たすように上述の“最近の流行”でお伝えしたようなサービスが次々と生まれてきています。それこそ、日本より進んでいて、便利なモノ、サービスも少なくありません。

日本人から見れば中国はまだまだ発展途上国かもしれませんが、実際に住んでみると考えている以上に発展しているように感じられると思います。

また、この記事を読んでいただいた方に、上海(中国)の現状についてご理解を深めて頂けましたら幸いです。